

終末の救い



シリーズ～終末を生きる～

2018/7/1

ヨハネの黙示録 第7章



この後、わたしは大地の四隅に四人の天使が立っているのを見た。彼らは、大地の四隅から吹く風をしっかりと押さえて、大地にも海にも、どんな木にも吹きつけないようにしていた。わたしはまた、もう一人の天使が生ける神の刻印を持って、太陽の出る方角から上って来るのを見た。この天使は、大地と海とを損なうことを許されている四人の天使に、大声で呼びかけて、こう言った。「我々が、神の僕たちの額に刻印を押してしまうまでは、大地も海も木も損なってはならない。」

ヨハネの黙示録 第7章



わたしは、刻印を押された人々の数を聞いた。それは十四万四千人で、イスラエルの子らの全部族の中から、刻印を押されていた。ユダ族の中から一万二千人が刻印を押され、ルベン族の中から一万二千人、ガド族の中から一万二千人、アシェル族の中から一万二千人、ナフタリ族の中から一万二千人、マナセ族の中から一万二千人、シメオン族の中から一万二千人、レビ族の中から一万二千人、イサカル族の中から一万二千人、ゼブルン族の中から一万二千人、ヨセフ族の中から一万二千人、ベニヤミン族の中から一万二千人が刻印を押された。

ヨハネの黙示録 第7章



この後、わたしが見ていると、見よ、あらゆる国民、種族、民族、言葉の違う民の中から集まった、だれにも数えきれないほどの大群衆が、白い衣を身に着け、手になつめやしの枝を持ち、玉座の前と小羊の前に立って、大声でこう叫んだ。「救いは、玉座に座っておられるわたしたちの神と、小羊とのものである。」また、天使たちは皆、玉座、長老たち、そして四つの生き物を囲んで立っていたが、玉座の前にひれ伏し、神を礼拝して、こう言った。「アーメン。賛美、栄光、知恵、感謝、誉れ、力、威力が、世々限りなくわたしたちの神にありますように、アーメン」

ヨハネの黙示録 第7章



すると、長老の一人がわたしに問いかけた。「この白い衣を着た者たちは、だれか。また、どこから来たのか。」そこで、わたしが、「わたしの主よ、それはあなたの方がご存じです」と答えると、長老はまた、わたしに言った。「彼らは大きな苦難を通して来た者で、その衣を小羊の血で洗って白くしたのである。それゆえ、彼らは神の玉座の前において、昼も夜もその神殿で神に仕える。玉座に座っておられる方が、この者たちの上に幕屋を張る。彼らは、もはや飢えることも渴くこともなく、太陽も、どのような暑さも、彼らを襲うことはない。玉座の中央におられる小羊が彼らの牧者となり、命の水の泉へ導き、神が彼らの目から涙をことごとくぬぐわれるからである。」

5人の天使



- 前章では七つの封印のうち、六つが開かれた
 - 1～4の封印: 4つの馬と乗り手 > 4つの災い
 - 5つ目の封印: 殉教者たち
 - 6つ目の封印: 天変地異 > 終末の到来を知る
- 突然の場面が変わり、4人の天使が現れる
 - 「大地の四隅から吹く風をしっかりと押さえ、大地にも海にも、どんな木にも吹きつけないようにしていた」
- 5人目の天使が現れ、呼びかける
 - 「我々が、**神の僕たちの額に刻印を押してしまうまで**は、大地も海も木も損なってはならない。」

刻印を押された人々



- ヨハネが刻印を押された人々の数を聞くと
 - 「それは十四万四千人で、イスラエルの子らの全部族の中から、刻印を押されていた。」
- イスラエルの十二部族それぞれから「一万二千人が刻印を押され」た
 - $12,000 \times 12 = 144,000$ 人は何を表すか？
- 「イスラエルの子ら」とは誰か？
 - 霊のイスラエル > クリスマンたち
 - 肉のイスラエル > 終末期に救われるイスラエル人

パウロが語ったイスラエル人の救い



- **まず異邦人が信仰によって救われた**
 - 「義を求めなかった異邦人が、義、しかも信仰による義を得ました。しかし、イスラエルは義の律法を追い求めていたのに、その律法に達しませんでした。」
ローマ9:30-31
- **やがてイスラエル人も救われる**
 - 「一部のイスラエル人がかたくなになっただのは、異邦人全体が救いに達するまでであり、こうして全イスラエルが救われるということです。」11:25-26

白い衣を着た大群衆



- 突然現れる大群衆

- 「この後、わたしが見ていると、見よ、あらゆる国民、種族、民族、言葉の違う民の中から集まった、だれにも数えきれないほどの大群衆が、白い衣を身に着け…」7:9

- 終末期に救われる人々

- 「彼らは大きな苦難を通過して来た者で、その衣を小羊の血で洗って白くしたのである。」7:14
- 「屠られた小羊」であるイエス・キリストを信じて罪赦され、救われた人々

究極の救いと慰め



- 父なる神が直接守られる
 - 「それゆえ、彼らは神の玉座の前において、昼も夜もその神殿で神に仕える。玉座に座っておられる方が、この者たちの上に幕屋を張る。」7:15
- 苦しみが襲うことはなくなる
 - 「彼らは、もはや飢えることも渴くこともなく、太陽も、どのような暑さも、彼らを襲うことはない。」7:16
- 小羊(キリスト)が守り、神が慰めて下さる
 - 「玉座の中央におられる小羊が彼らの牧者となり、命の水の泉へ導き、神が彼らの目から涙をことごとくぬぐわれるからである。」7:17